

充実した毎日を生き生きと、

そして全てに感謝

平成21年2月にご入居された 宮嶋 幸子様

最後を一緒に過ごした
ご主人への思いと共に

お召しになっている華やかなロングドレスは宮嶋さんのお手製！「話し出すと止まらないのよ」と朗らかな声が響きます。「朝は毎日、二の丸公園でラジオ体操。朝食後はご入居の皆さんと卓球をして、午後は水泳。周りの方たちからは、ちよつと頑張り過ぎじゃないのと言われています(笑)」とはつらつとした表情。水泳は、70歳を機に始められたばかり。「体を鍛え、もつと生き生きとしたい」と思つて挑戦しました。泳いだり、アクアダンスをしたり…。体が軽くなつてきたんですよ。これから10年計画で、25mを泳げるようになるのが目標」と張りのあるお声です。

40年にわたつて専修学校の被服科の教諭を務めてこられた宮嶋さん。「休むことが嫌いで、仕事ばかりしてきました」とおっしゃいます。今も週1回は教室の講師を務めになり、10〜80歳の生徒さんがいらつしやるそうです。「仕事があつて、刺激のある毎日を過ごすことができ何より感謝しています」とお話しになります。

ご入居のきっかけは、『グランガーデン熊



本」が開いたコーラスの発表会に、多趣味でいらつしやつたご主人とお訪ねいただいたこと。「館内を案内していただき、素晴らしい場所があるんだなあと思いました。熟慮を重ねて入居しましたが、主人は2年後に亡くなりました。その間、主人が夜中に熱を出したことが数回ありました。どうしようと思つた時、3階にナースが常駐されていることを思い出し、思い切つて連絡をしたらすぐに駆け付けて対応していただいたんです。大変心強く感じました」とのこと。お亡くなりになる前も3階で「泊され、とてもお世話になつたとお話しになり

ます。

「主人は、私の今後のために入居してくれ、全てを整えてくれました。ここで最後をずっと二人で過ごせたことに感謝しています」と宮嶋さん。しばらくは誰とも顔を合せたくないと思つていらつしやつたそうですが、スタッフから励ましの声を掛けられて気持ちが切り替つたのだそうです。「よし！ これからは一人で生きて、自分の人生を楽しまなくちゃ、って。周囲の方が支えてくださるこの環境を有難いと感じています」と晴れやかな表情でお話しくれました。